

○「誰もが安心して暮らし、幸せを実感し、住み続けたいと感じられるまち」を実現するために、今回の補正予算にて「子育て支援の充実」、「地域経済の活性化」、「地域資源を活かしたまちづくり」、「移住の促進」の4本の柱に基づく事業に対し、新たに経費を追加する。

【予算規模】

一般会計:7億1,618万円、特別会計1,166万円、企業会計:△3億5,000万円

○補正予算の編成においては、地域未来交付金等の国庫補助金や交付税措置のある市債等有利な財源を徹底的に活用することで、市の財政負担を極力縮減させた。

○地域をより良くしたいという思いで寄せられた寄附金を活用し、「社会の共創によるまちづくり」を推進する。

1 事業概要

(1)子育て支援の充実 2,500万円
(寄附金 2,500万円を活用)

○大浜公園プールこども料金無料化（7月の平日）

大浜公園プールは、昨年9.4万人に来訪いただいたが、平日（特に夏休み期間外）の利用者数が休日より少なく、平日利用の促進が課題となっている。また、複数回利用する世帯を中心にこども利用料金の負担軽減を求める声があることから、大浜公園プールのこども料金の負担軽減により平日の利用を促進し、子育て世帯の利用機会を拡大するため、寄附金を活用して2026年7月の平日（19日間）のこども料金を試験的に無料化する。無料化による利用料金の減収分は、負担金としてPFI事業者へ支払う。

(2)地域経済の活性化 4,660万円
(地域未来交付金 2,330万円、交付税措置のある市債 630万円を活用)

○街道を軸とした広域観光の推進 2,760万円

東海道57次を一体的な歴史・観光街道として相互観光誘客・周遊を促進させるため、市として最多の6宿場を有する静岡市が中心となり、各宿場のウェブサイトの連携・デジタルスタンプラリー機能を搭載した東海道57次のデジタル基盤を構築する。

○駿府城公園紅葉山庭園茶室の改修 1,400万円

駿府城公園の歴史的価値を最大限に生かした静岡市独自の高付加価値な観光コンテンツを創出し、機能の向上及び滞在型観光の推進につなげるため、紅葉山庭園茶室の補修・改修の設計を行う。

○模型活用STEAM教育プロジェクト 500万円

静岡市が世界に誇る模型と先端的なデータ活用技術を組み合わせた次世代STEAM教育プログラムの構築により、データ活用力や課題解決力を持つ次世代人材の育成、ならびに新しい時代の模型教育ビジネスとして世界展開を目指すための事前調査等を行う。

(3)地域資源を活かしたまちづくり **6,067 万円**
(国庫補助金 500 万円、寄附金を積み立てた基金の繰入金 5,567 万円を活用)

○歴史的風致維持向上計画(歴史まちづくり計画)の作成 **500 万円**
歴史的風致の維持及び向上に関する方針を明確にするとともに、重点区域を選定し(2026 年度は久能・蒲原地区)、区域ごとに地域活性化のための取組を定めるための計画を作成する。

○静岡市ネイチャーポジティブの推進 **3,067 万円**
生物多様性の損失を止め、豊かにしていく概念「ネイチャーポジティブ(自然再興)」を推進するため、環境分野での調査実績や世界的ネットワークを持つ OECD(経済協力開発機構)のプロジェクトに参加する。

○南アルプスネイチャーポジティブの実行 **2,500 万円**
南アルプスにおける「ネイチャーポジティブ」の実現に向けた実行委員会を設置し、今後の取組を具体化した実行計画の策定や、新たな技術を活用した防鹿柵の開発を行う。

(4)移住の促進 **1億 9,547 万円**

○移住者向け住まい提供事業
定住人口の増加を目的に、移住検討者が静岡市での生活基盤を整えられるよう、期限付きで市営住宅の空き部屋を提供しているが、利用希望に対し移住者向け住宅が不足していることから、新たに市営住宅の空き部屋 39 戸を改修する。

(5)その他 **3億 8,844 万円**
【継続費 △14 億 4,800 万円】
【債務負担行為 1億 2,680 万円】

○国庫補助金の認証に伴う事業費変更 ほか

(6)企業会計(水道事業会計) **△ 3億 5,000 万円**
【債務負担行為 9億5,000 万円】

○葵区牛妻・門屋導水管布設替工事
牛妻・門屋導水管は、安倍川の牛妻水源地から採取した原水を門屋浄水場へ送る導水管であり、市全体の約2割の水を供給する重要な水道管だが、1937年の供用開始から 89 年が経過しており老朽化していることから、布設替えによる耐震化工事を実施する。(総事業費 36 億円)

国庫補助の認証減による事業計画の見直しと、資材価格の高騰により、現年度予算の減額と債務負担行為限度額の増額補正を行う。

(参考:水道事業会計の収支構造と国庫補助金活用の重要性)

支出	収入	
36億円	国庫補助金 11億8千万円	水道料収入のみで工事をする場合、水道利用者1人あたり5,481円の負担だが、 <u>国庫補助金の活用により、水道利用者1人あたり、1,797円の負担減少に相当</u> $11億8千万円 \div 656,789人 \div 1,797円$ 給水人口(※1)(令和6年度決算値) ※1 「給水人口」とは、給水区域内に居住し、水道により給水を受けている人口のこと。 ※2 企業債の返済には水道料金収入を充てる。
	企業債 24億2千万円 (水道料金収入※2)	

2 予算規模

区 分	2026年度 6月補正予算額	2025年度 6月補正予算額
一 般 会 計	7 億 1,618 万円	29億 6,014 万円
特 別 会 計	1,166 万円	0円
企 業 会 計	△3 億 5,000 万円	0円
全 会 計	3 億 7,784 万円	29億 6,014 万円

・継続費	△14 億 4,800 万円
・債務負担行為	
一般会計	1 億 2,680 万円
企業会計	9 億 5,000 万円

○2026 年度予算額の累計	
全会計	7,679 億 9,454 万円
うち一般会計	4,042 億 1,618 万円

担当：財政課 (221-1026)